

第32号
2006.7

男女共生社会推進センター

まいびる

～男女共生社会づくり～



CONTENTS

特集 鼎談～女性のチャレンジ～……1・2

平成18年度講座・イベント……3・4

リレーエッセイ 熨川美夫さん……5

推進課インフォメーション・推進事業者訪問……6

審議会新任委員抱負・相談室から……7

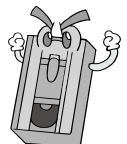
“まいびる”図書・情報資料室から

ビデオの貸出をはじめました。

ビデオの貸出は1人につき1本、図書は3冊です。

いずれも貸出期間は2週間です。

お気軽にご利用ください。



鼎談 ～女性のチャレンジ～

男女共同参画社会の実現をめざして、様々な取り組みが行われる中、とりわけ女性のチャレンジ支援は重要な施策と位置づけられています。そこで、今回はNPO活動などに活躍されている栗山京子さん、救急救命士として女性の進出の少ない職場に勤務されている八文字壽枝さんを迎え、井ノ本眞治センター所長を交えて、チャレンジのきっかけなどについて体験談を語ってもらいました。



所長 お二人はそれぞれ活動されている分野は異なる訳ですが、八文字さんはどのようなきっかけで、今の進路に進まれたのですか。

八文字 高校3年生の頃から、進路どうしようかなと考えて、初めは医療関係の仕事に就きたいと思ったんですよ。救命士というのはそのころ出来たばかりの資格で、救命士って何だろうと思いました。看護師じゃなくて、もっと違うことしてみたいなと思って、あまり深く考えずに救命士の学校に行きました。入学して初めて救命士は消防署に勤務して、100%資格を有効に活用できるというのが分かって、そこからですね、消防行こうかなと思ったのは。

やつもんじ よしえ
八文字 壽枝 さん
(1978年茨城県生まれ)

平成11年、救急救命士の資格を取得。同年5月那賀消防組合に採用され、茨城県から和歌山県に移る。現在は岩出市にある中消防署に勤務し、救急をメインに消防業務にも従事している。勤務は3交代制で職務内容は男性と同じ。



所長 茨城県から出てこられて、抵抗はなかったですか。

八文字 あまり抵抗はなかったですね。ただ和歌山県って「どこ?」という感じはありました。最初ははどうしようかなって迷ってたんですけど、そこは親が後押してくれた感じで「行って来たら」って。せっかく資格も取ったんだし、ひとつのチャンスだと考えたことと、親に言われた一言で決断できました。仕事もそれなりにこなせるようになって、「ありがとう」って親に感謝していますね。両親は生活の中では大変厳しいですけど、将来的にやりたいこととか、学校ここへ行きたいんだという事に関しては反対されたことないですね。

所長 ものすごく理解のある親御さんだったんですね。栗

山さんのご家族はどうですか。

栗山 自分がやりたいな、と思ったことをやっているの、家族の理解はあとからついて来ているのかな(笑)。これをやろうかなと思ったら、相談もなしにやり始めていることが多くって、「そんなのやってたの?」みたいな。それが、わからないくらいに家のことも、完璧じゃないけどやっているから理解してくれていると思いますね。

所長 八文字さんは女性の進出が少ない職場に就職するにあたり、いわゆる性別による男女役割分担というのが言われてますが、そのようなことを意識したことはありますか。

八文字 最初から特に意識はしなかったです。あまり深く考えていませんでした。職場には女性がいるものと思ってたんですね。就職してから、少ないんだ、と。

栗山 女性ということで現場で困ったことなどありますか。

八文字 患者さんを乗せた担架は結構重いんですよ。それで、大丈夫なのに、すごく心配されすぎて。周りの人が変に気を遣いすぎて、最初のうちは困りました。逆に、最近大きな公衆浴場が増えていますが、お風呂で倒れたとき、「女性の救急隊の人来て下さい」と言われるんですよ。看護師さんといっしょで女の人って男湯・女湯どっちも行けちゃうんです。そういう面では便利ですね。

所長 仕事や活動を通じて、例えば女性の方が損している、男が得しているというような事を感じられたことはありますか。

栗山 たくさん活動していると毎週、会議が入ってきて、いつも夜に出かけるのは、多少気が引けます。それが男性だと、そんなに気にせず出られるんじゃないかなあという所はありますね。青年団で活動していると女性の方が結婚を機に活動休止することが多いです。男性は結婚しても続けら

れるが、女性は出かけにくくなるようです。

所長 県民意識調査を見ても、女性は結婚したら家庭に入らなければならないと思っている人も多いようです。結婚すれば、女性が仕事をしたい活動したいという願望が、ややもすれば犠牲にされてしまうというようなことがまだまだあるんじゃないでしょうか。

栗山 結婚すると、夫が帰ってくる時間には自分は帰っておかないといけない。仕事も家事もしている人だったら、自分にあまり余裕がなくて、やりたいことがやれずにストレスが溜まってくると思うんですね。結婚する前からそのあたりを話し合っておいて、活動できる時間を作っておいて欲しいなと思います。それと、私の場合、夫より親世代が問題でした。私が会議に出かけると、最初の頃はよく「家をあげて夜にどこ行ってんのよ!」と言われました。徐々に理解されてきましたが。

所長 女性が社会進出すれば、少子化に拍車をかけてるんだという意見もあります。女性の社会進出と育児との関係についてはどう思われますか。

栗山 子どもがいるから仕事や活動ができないって思うのは、できないと思うからできないんだと思うんです。子どもに英会話教えてると、働いているお母さんてほんと多くて。おじいちゃんおばあちゃんの協力を得ながら、保育所、託児所の利用だとか、ご近所さんとの連携だとか、お友達なんかの協力を得ながらやれることはたくさんあると思うんです。子どもが出来たら活動、やりたいことができなくなるかという、私はそうではないと思います。その辺は考えずに子どもも生み、やりたいこともやっていって欲しいなと思いますね。

くりやま きょうこ
栗山 京子 さん
(1968年和歌山市生まれ)

2000年「いぶる主催」和歌山県地域女性リーダー養成プロジェクト”を受講。そのメンバーで作ったNP O”プロジェクト2000あらんな”に所属。現在、英会話教室経営、講師、司会、コーチ業をしながら4つのNP Oに所属し、男女共生などの活動に忙しい。



所長 今後、八文字さんのようにチャレンジしていく女性に

対して励みとなるような、体験などあればお聞かせ下さい。

八文字 現場では悲しいことの方が多いんですね。自分の無力さを感じます。でも、直接会ってはいませんが、怪我が治って退院して、「お礼持ってきてくれたで」って言われた時は嬉しかったですね。たまにしかないんですけど、はがきもらったりもします。また男女平等とはいっても、体力などの面では無理な面は無理だし、出来ないことは出来ないとはっきり言わないと周りに迷惑かけます。がんばらなきゃいけないけど無理はできない。はっきり出来ないことはできないという勇気も必要です。



井ノ本所長

栗山 適材適所というか、家庭の中でもいっしょで、今日はしんどいから家事やってよという勇気も必要ですね。

所長 栗山さんは、ご理解のあるパートナーさんで、家事分担を上手にされているわけでしょう。

栗山 夫は結婚当時は会社員だったんですけど数年後自営業になったんです。そのとき、自営業は安定してないから、家族や親戚から反対されたんですね。でも彼は何とか私には賛成して欲しいってということで。他に賛成してくれる人がないんだったら、じゃ、がんばりなよって。だから、彼も私が忙しくすると、協力しようという姿勢というか理解があるんだと思うんです。もちつもたれつですね。

所長 栗山さんの場合はパートナーに恵まれ、八文字さんの場合は親御さんに恵まれ、自分のやりたいことをやっていける、理解してもらっている、そういう環境というのは大事だと思います。

最後に、女性の社会参画を進めていくうえで、何かご提言いただけますか。

栗山 会社員の男性が育休取るのって、PRしないと始めにくい面があると思うんです。出前講座の押し売りじゃないですけど、企業さんとかに出かけていって研修に取り入れて貰えたらもっとPRできるんじゃないかなと思いました。

所長 待ちの姿勢じゃだめということですね。本日はどうもありがとうございました。

平成18年度"りいぶる"講座・イベントカレンダー

講 座 ・ イ ベ ン ト 等	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
絵本の心 子どもの心 ～こどもと大人の絵本の時間～ 男女共同参画の視点により親と子で絵本を楽しむ講座です。	↔ 7/5-6								
りいぶる企画提案事業 地域のグループから男女共同参画の推進のための事業企画案を募集し、採用した企画を提案したグループに委託して実施します。	→ 6/1～7/31 企画案募集		←			事業実施		→	
男の生き方セミナー 家庭や地域の中でのこれからの生き方を見つけるための講座です。			↔ 9/2-9						
再就職支援講座 女性の再チャレンジを支援するための講座。再就職を考える女性のための初級編。				↔					
あなたの魅力再発見!! ～自分らしさを見つけてみませんか?～ ライフスタイル応援講座です。								↔	↔
チャレンジ支援「女性起業塾」 女性の自立と社会参画を支援するための女性起業塾を実施します。			↔ 9/16-30	→ 10/1-14				↔ 2/17	
りいぶるdeさんかくトーク 男女共同参画についてのわかりやすい講話等とワークショップを通じて、今自分が地域や家庭でできることは何なのかを考えます。			←				→		
りいぶるわいわいサロン 結婚や子育て等について、ゲストスピーカーを交えたり映画を観たりしながら、参加者同士が自由に意見交換を行う機会を提供します。		←							→
りいぶるフェスタ2006 男女共同参画推進に向けた意識啓発のため公開講座を中心としたイベントを開催、併せて男女共同参画いきいき大賞の表彰を行います。					↔ 11/18-19				
男女平等意識啓発セミナー 男女平等意識の醸成と男女共同参画の必要性を広く啓発するための講演会を開催します。								↔ 2/24	

「男女共同参画いきいき大賞」推薦募集

家庭・学校・地域・職場などで、積極的に男女共同参画に取り組んでいる個人、団体を募集し、表彰します。

表彰区分 ベストパーソン賞 2人
ベストグループ賞 2団体

募集締切 平成18年7月31日(月)

応募方法 "りいぶる"、県男女共生社会推進課、各振興局、和歌山市男女共生推進センター、田辺市男女共同参画センターに設置しているチラシ裏面(推薦書)に必要事項を記入し、"りいぶる"又は振興局へ郵便・ファックスにより提出してください。自薦・他薦は問いません。



推薦書ダウンロード可

「男女共同参画啓発ポスター」作品募集

男女共同参画の必要性を広くアピールするため、啓発ポスターを募集します。

テーマ みんなが輝く男女共同参画(作品への記載は自由です)

規格 ・四つ切画用紙(ヨコに使用)
・色彩、画材、画法は自由
・未発表のものに限ります。

締切 平成18年9月15日(金)

賞 最優秀賞・優秀賞・参加賞

発表 平成18年10月(入賞者に通知)

応募資格 県内在住、在勤、在学の方

応募方法 作品の裏面に住所、氏名、年齢、電話番号、学生の方は学校名と学年を明記し、"りいぶる"又は所管の振興局へ提出してください(郵送可)

「りいぶるdeさんかくトーク」参加者募集

安心していきいきと暮らせる社会をめざし、参加者が地域や家庭で今自分にできることは何なのかを考えるため、講演会等を県7振興局で開催します。

開催時期 平成18年9月～平成19年1月

開催場所 各振興局会場

定員 30～40人

申込先 各振興局総務室

★各講演会等の開催日及び場所は県広報紙「県民の友」等に掲載を予定しています。



一時保育あり

「りいぶる企画提案事業」企画案募集

地域のグループなどから男女共同参画を推進するための講演会や研修会等の企画案を募集します。採用した企画については提案したグループに事業委託して実施します。

対象 5人以上のグループ等

テーマ例 仕事と家庭の両立、地域のネットワークづくり、これからの生き方など

事業の実施時期 平成18年9月～平成19年2月

経費 4万円(上限)

募集締切 平成18年7月31日(郵送の場合は当日消印有効)



募集要項、申請書ダウンロード可

「女性起業塾」受講生募集

女性のチャレンジ支援として、女性の社会進出と自立を推進するための女性起業塾を開催します。おうちで、週末、インターネットを使って…など、起業のスタイルはいまや自由自在。それぞれにあったスタイルで、私らしさを咲かせてみませんか?詳しいプログラムや講師陣などは「りいぶる」のホームページでご覧いただけます。

申込先 平成18年 9月16日(土)、30日(土)
10月 1日(日)、14日(土)
平成19年 2月17日(土)
の合計5日間、時間は10時～17時

開催場所 りいぶる研修室
※2月17日のみ和歌山市田中町のパソコン教室

対象者 起業で自己実現、社会貢献したい女性

受講料 無料※パソコンテキスト代は実費

募集人数 20人(応募者多数の場合は抽選)

募集期間 8月1日(火)～9月4日(月)

応募方法 エントリーシート(申込用紙)に必要事項を記入し「りいぶる」へ提出。
(FAX・郵送・メールのいずれかで)



一時保育あり

※2月17日のみ一時保育はありません、ご了承ください。



申請書ダウンロード可(8月1日より)

チャレンジカフェ 8/1オープンします

実力をつけたい、起業したい、働きたい、社会貢献したい、再チャレンジしたい…など、夢と希望を持った女性が集えるサロンをオープン。

有資格者がお話を承るチャレンジ・キャリア・コンサルティングや、月に一度実施のプチイベントで「わたらしさ」を発見したり。またお茶を飲みながら、最新の情報を光ブロードバンドによる高速インターネットで検索していただけます。

併設の図書室では人気の新刊やコミック、お子さま用の絵本、全国の女性センター等の機関誌、新聞コーナー(朝日・読売・毎日・日経・和歌山新報など)も自由にお楽しみいただけます。

春から貸出可能となったDVDも、カフェにある大型テレビでご覧いただけます。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

チャレンジカフェ

毎週火曜・木曜と偶数月第1土曜 10時～16時

チャレンジ・キャリア・コンサルティング

毎月第1・第3木曜 14時～16時

プチイベント

8月 5日(土)、9月 7日(木)、10月 7日(土)、11月 2日(木)
12月16日(土)、1月11日(木)、2月 3日(土)、3月 1日(土)
14時～15時

★詳細はりいぶるの ホームページにて随時情報更新します
※カフェのオープン時間のうち、12時～13時は係の対応は休憩をいただきます。

りいぶるわいわいサロン

私をほどくワークショップ ～五感をひらいて想像力を養うワーク～

ゲストスピーカー 岩橋 由梨さん(表現教育家)

開催日時 8月22日(火) 13:00～16:00

会場 りいぶる研修室

定員 20人

申込締切 8月10日(木)

申込方法 電話、FAX、Eメールで住所、氏名、年齢、電話番号を「りいぶるわいわいサロン」係まで



一時保育あり



一時保育 満1歳から小学2年生までのお子さんを預かります。事前申込必要。



申請書等が県ホームページからダウンロードできます。<http://www.pref.wakayama.lg.jp/sinsei/>



“いいふる”リレーエッセイ⑨

託児サポートで、元気をもらう

熱川 美夫 (にえがわよしお)

1940年和歌山県橋本市生まれ。2000年鉄道関連会社退職後、託児ルーム「アリス」設立。2003年4月から1年間、「和歌山県男女共同参画推進員」として活動。2004年4月、元推進員伊都ブロックメンバーを中心に学習・調査・啓発活動グループ「ITO☆WINN」を立ち上げ、代表として新たにスタートする。

定年後、仕事がなく家の中で閉じこもっていた時、妻が「子ども好きの貴方にピッタリの仕事」と言って、渋々受けた講座が、和歌山県男女共生社会推進センター主催「託児ルーム保育者育成講座」でした。その時いっしょに受講した仲間35名が集まって託児ルーム「アリス」を立ち上げました。アリスではグループ託児・個人託児を行っており、個人託児にはルームでの預かりと依頼者のお宅へ伺う出張託児があります。お陰様で現在まで順調に運営されてきています。

アリスでは私以外はみんな女性で、男性が女性の中で一人居るというだけで、変な目で見られる事が多く、初めはとても戸惑いました。ところが、「おばちゃんより、おじちゃんの方が好き!」という子どもも結構いるのです。42年間組織の中で働いていた中では到底味わえない喜びを感じています。

託児サポートの活動をしていると、乳幼児から小学生まで様々な年齢の子ども達と遊んだり、一緒に活動する機会があります。県立橋本体育館で行われる「エアロビクス」などのスポーツ教室に併設されるグループ託児で出会う子ども達です。

子ども達は本当にすばらしいと感じます。乳児は、何もせずそこで寝ているだけで、まわりの人たちがあたたかい気持ちになれます。同じ年齢の子でも成長の歩みには、それぞれのテンポがあるので様々ですが、どの子どもも見ていと輝いています。体育館へ来ればいろいろな年齢のお友達との出会いがあり、年齢の差があっても最後には仲良くなっています。

遊びの人気者と言えば、本の好きな子どもは「きかんしゃトーマス」。おもちゃ遊びでは「ミニ新幹線」を走らせたり、「ミニカー」「ボーリング」「ままごと」「ブロック」などに人気があります。子どもの年齢によっても遊び方も色々で、すぐに輪の中に入っていける子もいますが、自分の世界に閉じこもっている子もいます。そういう子が回を重ねて来ると心を開き、遊びを通じて徐々に他の子ども

達の輪の中に入っていけるようになります。託児サポートをする者として、とても嬉しいことです。アリスの仲間です。普段ヘルパーの仕事をしている人が、「月に一度でもいいからアリスで働きたい」と言います。子どもと接することは大人同士では味わえない、何とも言えない喜びがあり、元気をもらえるからでしょう。それが明日からの活力となる、とてもやり甲斐のある仕事だと思っています。

2003年、私は縁あって「和歌山県男女共同参画推進員」に応募し活動しました。様々な啓発活動などに携わりましたが、1年間という短い期間だったこともあり、少々消化不良ぎみに終わりました。そこで伊都地方の推進員が集まり、「ITO☆WINN」を設立し、女性の生き方やDV（ドメスティックバイオレンス）を含めた家族支援について地域の人々と学び、人材発掘をしながらネットワークを拡げていく活動を続けています。本年4月に男性1名に加入していただきましたが、特に男性の人材発掘に力を入れています。

去年、病児保育にもチャレンジしようと、緊急サポートネットワークの研修も受講しました。私は現在、頸椎を痛めているため残念ながらアリスの活動は休会中ですが、一日も早く復帰し、子ども達からパワーをもらいたいと思っています。



託児サポート「アリス」事務所

県では、県の審議会等における、女性委員の登用を積極的に推進するため、「和歌山県審議会等への女性の参画促進要綱」を制定し、「平成17年度末までに30%以上とすること」を目標に取り組み、平成18年3月1日現在で、その目標を達成することができました。

今後は、新しい目標を設定し、男女共生社会の実現に向け、さらに取組を進めます。

平成18年3月1日現在の状況

対象審議会数 ……………100
委員総数 ……1,348名
女性委員数 ……………405名

女性比率
30%

今後の目標

平成18年度末までの女性登用率を35%に設定し、最終的に男女いずれかの数が総数の40%を下回らないようにする。

男女共同参画推進事業者を新たに登録しました!

有限会社MUROグループホーム太陽のおうち(登録番号男女第9号)

所在地	和歌山市	業種	社会保険・社会福祉 (老人福祉介護事業)
-----	------	----	-------------------------

- 男女の別なく、全員正社員として採用し、安定した労働環境づくりに努めている。
- 現在の職務に関しスキルアップを目指す職員が、研修等に参加する場合は、参加費用等を全額会社で負担するなどの支援を積極的に行っている。
- 家族などの看護や介護のため休む必要が生じた場合は、早く職務をバックアップするよう職員全員に周知徹底するなど、安心して休める雰囲気づくりに努めている。

男女共同参画推進事業者訪問

このコーナーでは、県に登録された事業者さんから直接お話を伺い、その取り組みぶりなどを、今年新規採用の私、木村が紹介していきます。



西岡 義高 所長

西岡会計事務所

従業員数はパートを含めて46名で職員の男女比は1対1、6つのセクションがあり、6人のセクションリーダーのうち2名が女性です。

仕事内容は外回りから内勤まで様々です。事務所が設立された当初は男性は外回

り中心・女性が内勤という体制がありましたが、時代の移り変わりとともに女性も外回りをするようになりました。しかし外回りをする女性に対する世間の目は厳しく、最初は女性だからという理由だけで軽視されたり信用してもらえなかったり…という状況だったそうです。しかし女性職員は「それだけの理由で決めつけられたくない」と逆にその状況をバネにして努力を重ね、次第に理解を得られるようになったといいます。また子育てに関しても仕事を一度退職して育児を行っていた職員を再び採用するなど職場復帰しやすい環境が整っています。その際本人の希望に応じて正職員かパートを選択することができるのも大きな特徴です。また小さい子どもがいる職員は帰宅時間を早めてもらえるので仕事と育児の両立がしやすくなっています。当事務所では所長を筆頭に性別にこだわらない職場作りが行われ、女性が長く働くことができる職場環境が築かれることによって、経験豊富な人材が増えて企業の作業効率の向上につながっているとのことでした。



人事部 崎山 靖子さん

きのくに信用金庫

きのくに信用金庫では女性の平均勤続年数が近年延びる傾向にあります。それは育児休暇に対する理解が深まり会社を退職するのではなく育児休暇を取得する女性が増えたからです。女性職員に話をきくと職場では育児休

暇をとるのが当たり前といった考えが浸透しているし、上司が育児休暇を取得しているので自分も育児休暇がとりやすいというお話を聞かせてくれました。やはり部下から育児休暇が欲しいと言い出すのは難しいですが上司が育児休暇を取得していると部下にとっても育児休暇をとりやすい雰囲気が生まれるようです。また女性だけではなく男性の育児参加も奨めています。これからは『ワーク・ライフ・バランス』を考えた職場づくりが大切と強調されていました。

また営業職には体力的に厳しい面があり男性が多いのが現状ですがそんな中でも女性ならではの営業活動を展開して、全体で200人いる営業職員の中でトップ10に入り表彰された女性もいるそうです。このような男女共同参画の視点から職場環境を作ったことによるメリットを尋ねると、女性が働きやすい職場ということで良い人材が集まったことや経験豊富な職員がお客様に対応できるといった人材面でのメリットが挙げられていました。

和歌山県男女共同参画審議会委員が改選されました

今回初めて委員に就任された皆様に、今後の抱負等についてコメントを寄せて頂きましたので、ご紹介します。

山崎 恵子氏（公募委員）

女性の生き方にも多様性が認められ、個性を発揮した生き方をしている人が増えている。スポーツ界における女性の目覚ましい活躍がそれを物語っている。しかし世の中の制度や社会の感覚としてはどうだろうか？会社や組織の方針決定の場に、女性は何パーセント含まれているだろう。皆様と共に考え、学ばせて頂き、経験不足を補えるよう努力したいと思います。

平木 貴子氏（公募委員）

女性も男性も活き活き暮らす為に自分の出来ることは何かを考えて地域活動をしています。子育て支援や再就職支援や男女共同参画の学習啓発などの活動を通して学んだり感じたことを生かして審議会に参加したいと今回応募しました。ともに活動している仲間の思いを大切に審議会委員を務めたいと思っています。

松根 洋子氏（新宮市地域福祉推進啓発相談員）

男女共生社会を実現させるためには、自分の家庭から見直したいと思います。まずは私自身の勉強と思いがなりたい。分かっているようで分からないのが私です。中学校しか卒業していない私には重荷に思いますが任期の間は皆様と一緒に勉強させて頂きたいと思います。

豊田 英三氏（ユタカ交通㈱代表取締役）

驚異的な少子化時代を迎え国際社会では国家間競争、国内では地域間競争に突入しました。この困難に立ち向かうため男女共生社会の推進により日本の将来の礎となる和歌山モデルを構築する必要があると考えます。男女共同参画推進事業者としての経験を活かし尽力させて頂き、素晴らしい和歌山のまちづくりになればと期待しています。

村上 恵美子氏（ウィメンスタディズ熊野代表）

「男女共生社会」の言葉が市民権を得たかに見える昨今ですが、家庭や社会がそうであるかは甚だ疑問とするところです。「生きづらいな」「何か変…」と感じるその所に、私達が今取り組むべき課題が潜んでいるのでしょう。問題としてではなく、みんなの課題と捉えて意識に根付かせ育てていきたい…私の抱負です。

“りいぶる”相談室から

～あなたはあなたのままで～

平成17年度(平成17年4月～平成18年3月)、“りいぶる”には1,585件の相談が寄せられました。昨年度と比べると、200件以上も増えています。

そのうち、37%が夫婦関係の相談で、親と子や男女、その他の人間関係の相談を含めると約半数を占めます。また、DV、ストーカー、セクハラ等の相談も全体の約20%を占め、男女共同参画を阻害する要因が大きく影響していることがわかります。

“りいぶる”では、女性が抱える様々な悩みを受けとめ、自分らしく生きるためのサポートをしています。先ずはどんなことでもお電話ください。

◇総合相談◇

毎週月～土曜日[面接相談] 9:00～17:30
[電話相談] 9:00～20:30

◇女性のためのカウンセリング◇

毎月第1～3金曜日 13:00～17:00[要予約]

◇女性のための法律相談◇

月3回 13:00～16:00[要予約]



相談専用電話

073-435-5246



■企画・発行

和歌山県男女共生社会推進センター
りいぶる

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2

県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛9F

TEL (073) 435-5245・FAX (073) 435-5247

URL <http://wave.pref.wakayama.lg.jp/danjo/>

開館時間 午前9時～午後8時30分

休館日 毎週日曜日・国民の休日(祝日)、年末年始(12月29日～1月3日)